

令和7年度 第4回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和8年2月6日（金）午後3時00分から午後5時00分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員10名

：富谷市9名

：事務局5名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

皆様、お疲れ様です。本日は年度末も近くお忙しい時期に、令和7年度第4回富谷市総合計画審議会にご出席いただき、心より感謝申し上げます。また、審議会委員の皆様には、日頃から市政全般についてそれぞれのお立場からご支援、ご指導、ご協力を賜っておりますこと、心より御礼を申し上げます。この富谷市総合計画は、市の最上位計画でございまして、平成28年10月10日に単独で市制施行するにあたり、「市になることが目的ではなく、大切なのはどのような市を作るのか」ということで、市民の皆様には様々なご意見をいただきながら作り上げてスタートしました。その総合計画も前期・後期を経て、令和7年度が最終年度となり、いよいよ令和8年度からは第2次総合計画がスタートいたします。審議会委員の皆様には、令和6年8月20日に第1回総合計画審議会を開催して以来、昨年度は3回、今年度は今回を含め、4回にわたり貴重なご意見をいただきながら、第2次総合計画や国土利用計画などについてご審議をいただきました。

振り返ってみますと、この10年間で富谷市は大きく注目をいただけるようになりました。様々な自治体評価ランキングでは、東北第1位と高く評価され、本日は千葉県流山市からも視察に来ていただきました。流山市は全国で子育て支援のトップランナーと言われている自治体ですが、本市が東北で最初に設立した不登校特例校で、子どもたちが生き生きと活動する姿を視察していただきました。また、先週は静岡県伊東市に、しんまち地区を視察していただきました。富谷町の時代は、他の自治体からの視察はほとんど無かったところですが、近年は全国各地から視察に来ていただけるようになりました。富谷市は、この10年間で大きく変わったと思っておりますが、これもご出席いただいている審議会委員の皆様には、それぞれの形でご支援、ご指導いただいた賜物だと思っております。

本日は、第2次総合計画のスタートに向けて、最終の審議会でございますが、総合計画の前期基本計画、総合戦略、国土利用計画についてご審議いただき、国土利用計画については答申をいただく予定になっております。それぞれ重要な計画でございますので、皆様の忌憚のないご意見を賜りながら、市制施行から10年目の大きな節目となる令和8年度を新たなスタートとして取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

3 会長挨拶（風見会長）

皆様、こんにちは。本当に年度末のお忙しい中、また、衆議院選挙がありまして、行政も大変な時期だと思っておりますが、お集まりいただきありがとうございます。本日はいよいよ第2次総合計画の最終の審

議会になります。若生市長からお話がありましたとおり、何よりも感慨深いのは、やはり市制施行10年を迎えるということです。若生市長とのご縁も市制施行と同時に始まりまして、最初に富谷市に伺った時には「何て美しいまちだ」と思いました。そして、知れば知るほど市民力が素晴らしく、今回の総合計画の中にも市民力がしっかりと位置付けられています。その意味で、この10年間を経た富谷市が、これから更に飛躍するものと思っています。総合計画は大変重要な計画でございますが、最も上位にあることから総花的になりやすいものです。しかしながら、そのようなことがないように、第2次総合計画では特に重点施策を18に絞ってまいりました。そちらは本日ご覧いただきます。

この総合計画審議会と並行して、若生市長を筆頭に市の幹部職員に「円卓会議」としてお集まりいただき、議論を重ねてまいりました。なぜ「円卓会議」と名付けたかと申しますと、皆様がフラットな立場で、しっかりと未来を見据えた会議を開催するという意味が込められています。事務局では、円卓会議での議論の内容も踏まえ一生懸命詰めてこられたということで、とても美しい仕上がりになっているのではないかと思います。

また、話が脱線しますが、若生市長と流山市長は少し似たようなご経歴をお持ちです。流山市の井崎市長は、NPO法人出身で色々な流山市の行政に携わり、環境改革、市民改革をされて市長になられた方です。私とも長いお付き合いがありまして、流山市と富谷市は相通じるところがあると以前から思っていました。流山市も、住みやすいまちとして、子育ての環境をしっかりと整え、筆頭に上がるような自治体ですので、その意味では富谷市と流山市の両市長がお会いになっているということは、記念すべきことであると喜んでおりました。本当に井崎市長は市民思いでありまして、富谷市のことは以前から注目されていたのだと思います。

若生市長からもありましたとおり、令和8年度は富谷市の市制施行から10年目の節目でして、私も第1次富谷市総合計画から関わらせていただいております。その頃からの審議会委員の皆様もおられますけれども、第2次総合計画では市民力と田園都市がしっかりと位置付けられておりまして、また、大きな観光資源があるわけではないこの富谷市が全国からしっかりと注目され、これからも期待されているということは、関わらせていただいた我々も大変誇りに思うところであり、この審議会は本当に重要な役目を果たしていると思います。本日は、総合計画、総合戦略、国土利用計画の全体のとりまとめということになります。皆様にはしっかりとご議論いただいたうえで答申を申し上げて、いよいよ実装ということで、来年度からは、我々はそれをモニタリングしていく立場になります。本日は、もう一度しっかりと見直して、最後の審議ということでこれらの計画を誕生させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

※ここから、風見会長が議長となり議事が進行された。

4 議事

(1) 第2次富谷市総合計画・前期基本計画最終案について

(風見会長)

それでは、議事の1つ目、(1) 第2次富谷市総合計画・前期基本計画最終案について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第2次富谷市総合計画・前期基本計画最終案についてご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。こちらは、前回お示しした前期基本計画案の部分だけではなく、昨年度お示ししておりました「富谷市の現状や市民ニーズ」、11月議会で議決いただいた基本構想などを加えて、総合計画として1冊に構成を整え、デザインを入れたものがございます。また、新たに今後の5年間で重点的に取り組んでいく「重点施策」や「第3次地方創生総合戦略」についても追加しておりますので、計画全体の構成と、新たに追加した部分について、ご説明させていただきます。

計画については、横版で編集しており、富谷ブルーをイメージした表紙等のデザインとしております。全体の構成についてですが、1枚めくっていただきますと、左のページに市長挨拶、右ページには目次がございます。もう1枚めくっていただきますと、第1章「はじめに」といたしまして、次ページから総合計画の策定の趣旨、まちづくりのキーワード、計画の構成と期間などについて記載しております。

次に、14ページをご覧ください。第2章「社会情勢と富谷市の現状」といたしまして、時代の潮流、17ページからは「市民参加・市民ニーズ把握の取組」として、市民アンケート調査や市民ワークショップ、審議会委員の皆様のご意見、まちづくりの主要課題を記載しております。市民参加の部分には、今年度実施いたしましたこども絵画コンクールとデジタルタウンミーティングについても追記し、全体的に文量を調整する予定でございます。

次に、26ページをご覧ください。第3章「基本構想」といたしまして、まちづくりの将来像・基本理念、それからまちづくりの柱・基本目標、34ページ以降には、将来人口・人口フレーム、産業経済フレーム、土地利用について記載しております。

次に、40ページをご覧ください。第4章「前期基本計画」としまして、7つの目標に基づいた34の施策、98の取組について記載しております。第3回審議会の委員の皆様のご意見や、庁内での修正を反映させております。委員の皆様からいただいたご意見の反映状況につきましては、資料2にまとめてございますので、後ほどご覧いただければと思います。また、昨年12月3日から22日まで前期基本計画案に係るパブリックコメントを実施いたしました。計画に係るご意見等はございませんでしたので、ご報告いたします。

それでは、前期基本計画の最終ページ114ページをご覧ください。「重点施策」のページを追加しております。令和8年度から令和12年度までの5年間のまちづくりをけん引する重点施策として、18の施策を選定いたしました。1. 成田二期北工業用地への企業誘致による雇用の創出と地域経済の活性化、2. 富谷塾による起業・創業支援の充実と新たな産業の創出、3. 東北医科薬科大学・富谷メディカルセンター（仮称）の早期立地による地域医療・救急医療の充実、4. 都市型自走式ロープウェイなど新たな軸となる基幹公共交通の整備、5. 杉林から広葉樹への転換を推進する森林再生プロジェクトによる自然環境の適切な保全と活用、6. 田園都市にふさわしい魅力ある住宅地の供給と住みよい居住環境の形成、7. 多様な学びの場づくりによる誰一人取り残さない教育の推進、8. 全小中学校体育館の空調設備整備など良好な教育環境の充実、9. ユートミヤを拠点とした市民の憩いの場・交流の場づくりの推進、10. 子育ての負担や不安を軽減し妊娠から切れ目のない子育てにやさしい支援の充実、11. 農福連携などによる障がいのある方の働く場の確保、12. 生活支援や見守りなど高齢者が安心して暮らせる環境整備・心と体の健康づくりの推進、13. 市民協働による大亀山森林公園の魅力向上と豊かな自然の環境整備、14. ブルーベリー・はちみつ・富谷茶の生産拡大や新たな特産品の創出、15. 脱炭素の実現に向けたオールとみやによる施策の推進、16. 地域や職場などにおける女性活躍・男女共同参画の推進、17. ふるさと納税の拡充など

自立した歳入確保等により健全な行財政運営の推進、18. 行政手続き等のDX化による市民サービスの向上、この18施策を今後5年間の重点施策として取り組んでまいります。

118ページ以降は、第5章として「第3次地方創生総合戦略」を追加しておりますので、次の議事でご説明させていただきます。なお、審議会の皆様のお名前等につきましては、今後追記することとしております。引き続き、文言のチェックやデザインの調整を経て、3月中旬に策定してまいります。前期基本計画最終案の説明は以上でございます。

(風見会長)

只今ご説明がありました第2次富谷市総合計画・前期基本計画最終案について、ご意見、ご質問があれば伺いますが、いかがでしょうか。

(風見会長)

よろしいでしょうか。それでは、こちらを最終案とさせていただきます。

(2) 第3次富谷市地方創生総合戦略案及び第3次富谷市人口ビジョン案について

(風見会長)

それでは、議事の2つ目、(2) 第2次富谷市地方創生総合戦略案及び第3次富谷市人口ビジョン案について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第3次富谷市地方創生総合戦略案についてご説明させていただきます。

資料1の118ページをご覧ください。まず、「総合戦略の趣旨と位置付け」でございますが、現在の急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけると共に、東京圏への人口の過度の集中を是正し、将来にわたって活力ある地域を維持していくという「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定するものでございます。前期基本計画の中でも、創生法の趣旨に即し、特に人口増加に向けて効果的な施策を戦略として位置付けて、総合計画と一体的な推進を図るものでございます。総合戦略の計画期間は前期基本計画と同じく、令和8年度から令和12年度までの5年間としております。

次に、119ページの「人口の現状と将来展望」でございますが、本市の総人口は、昭和50年以降、大規模な宅地開発の進展により大幅な増加傾向が続き、平成27年に50,000人を突破し、翌年の平成28年には単独で市制施行いたしました。市制施行後は、新しい住宅地の整備や子育て支援、学校教育の充実などに取り組むことで、子育て世帯の転入が進んできた一方で、大学進学や就職に伴い、若者が転出する傾向が強まっており、人口の伸びは微増傾向となっております。人口の将来展望といたしましては、今後新たな住宅地の整備や子育て施策、企業誘致等、これから説明する総合戦略に掲げた施策を推進することにより、着実な人口増加を図り、令和42年、2060年の人口6万人を目指します。詳しい人口推計につきましては、後ほど第3次人口ビジョン案でご説明いたします。

120ページをご覧ください。「将来像と将来人口の実現に向けた戦略」についてでございます。総合計画に掲げた将来像「住みたくなるまち日本一 ～100年間ひとが増え続けるまち～」と2060年の将来人口6万人の実現に向けて、3つの戦略と2つの横断的な視点により、推進してまいります。

121ページをご覧ください。まず、戦略1「住みよい暮らしと産業創出戦略」については、成田二期北工業用地への企業誘致や、富谷塾による起業・創業支援に取り組むことにより、雇用の創出や地域経済の活性化を図ることとしております。併せて、自然環境の保全や自然と調和のとれた新たな住宅地の整備、基幹公共交通システムの整備検討などに取り組むことにより、職住近接や住みよい暮らしを実現し、持続可能な田園都市を目指すものでございます。主な取組については、記載のとおりでございますが、記載の取組のほかにも、達成に向けて必要な事業を行ってまいります。左下に戦略1の目標達成をはかる指標として、市民の定住意向の割合を設定しており、5年後の目標値を86%としております。また、その目標達成指標の達成に向けた取組指標を、成田二期北工業用地への企業誘致件数、富谷塾等による起業件数、新規住宅団地の居住者数としております。この取組指標については、前期基本計画の成果指標と同一とすることにより、一体的な推進を図ることとしております。

122ページをご覧ください。戦略2「とみやの魅力創出と交流人口拡大戦略」については、地域性を生かした新たな農産物への取組やブルーベリー・はちみつなどの特産品を生かした商品開発の支援などを進めることにより、市のブランド力を強化することとしております。また、しんまち地区の景観の保全やとみやどの充実、スイーツのまち、発酵のまちづくりなどに取り組みながら、市内外への魅力発信を強化することにより、交流人口の拡大を目指すものでございます。主な取組は記載のとおりでございます。戦略2の目標達成を図る指標は、年間の観光交流人口としており、5年後の目標値を21万人としております。また、その目標達成指標の達成に向けた取組指標を、とみやどの年間来場者数、ユートミヤの年間来館者数、市公式SNS登録者数としております。

123ページをご覧ください。戦略3「市民力向上と人を呼び込む移住・定住促進戦略」については、切れ目のない子育てにやさしい支援や教育環境の充実、東北医科薬科大学・富谷メディカルセンター（仮称）の早期立地による地域・救急医療の充実などに取り組むことにより、UIターン等による移住を促進することとしております。また、市民活動への支援や市民参加の多様な機会を提供することにより、若者や女性の活躍、市民力の向上を促進すると共に、多様な主体との協働を推進することにより、地域活性化や関係人口の創出を目指すものでございます。主な取組は記載のとおりでございます。戦略3の目標達成指標は、住民基本台帳人口としており、5年後の目標値を52,900人としております。また、達成に向けた取組指標を、乳幼児健診受診率、つながっていない児童生徒ゼロ、審議会等委員への女性登用率としております。

124ページをご覧ください。こちらに記載しております「横断的な視点」は、戦略1～3を横断的に捉えるもので、戦略全体と一体的また連動的に推進するものです。デジタルの活用や産学官等の連携により、3つの戦略を加速度あげて取り組んでまいります。説明は以上でございます。

引き続き、第3次富谷市人口ビジョン案についてご説明いたします。資料3でございます。

1枚めくっていただき、目次をご覧ください。全体の構成は、2章で構成しております。第1章につきましては、人口動向分析として、1つ目が時系列による人口動向分析、2つ目が人口移動に関する分析、3つ目が雇用や就労等に関する分析の3項目の分析を行い、本市の人口動態の現状分析を行っております。第2章では、人口の将来展望として、1つ目、将来展望に必要な調査・分析、2つ目が目指すべき将来の方向、3つ目が人口の将来展望、4つ目に目指すべき将来人口としております。現状分析を踏まえて、宅地造成に伴う転入者の増加等の仮定を行い、将来人口を推計する構成としております。

続いて、2ページでございます。上の1-1の図では、本市の総人口の推移になりますが、グラフのとおり

り、宅地造成に伴いまして、右肩上がりが増加し、平成27年以降、鈍化はしておりますが、微増で推移しております。

続いて、14ページをご覧ください。近隣市町村との純移動者数の状況でございます。平成27年から令和2年までの5年間における状況でございます。大崎市や石巻市、泉区などからの転入超過が見られ、逆に青葉区や若林区への転出超過といった状況がありましたが、次の15ページをご覧ください、直近の令和6年の単年の動向になりますが、若林区や青葉区などからの転入超過により、全体として社会増の状況となっております。

続いて、24ページでございます。人口の将来展望、人口推計に必要な調査・分析として、宅地造成に伴う見込み転入者数を設定しております。現在、成田二期東や西、明石台東二期の住宅団地の開発を進めておりますので、住宅団地の計画人口を分譲後の見込転入者数として、人口推計に加味することとしております。

続いて、25ページでございます。上段の目指すべき将来の方向になりますが、多様な世代が生活するまちとしての機能等の維持や、将来的なUIJターン等による移住の受け皿の確保といった観点から方向性を整理しております。安定的な居住環境や成田二期北工業用地への企業誘致等による就業環境の整備、子育て支援策の充実、医療体制の整備といった安全安心な暮らしに必要な事業の継続と情報発信を積極的に発信することで、UIJターンの推進や、地元の経済界と連携して、若い世代の地元就職率を高め、市内での起業を増やすなどにより、富谷市から転出した市民が地元に戻って暮らしたいという希望を実現する施策を推進することとしております。

続いて、26ページをご覧くださいまして、下の表2-4をご覧ください、将来人口を推計するにあたり、2つのケースでシミュレーションをしております。合計特殊出生率は、宮城県の数値を準拠しております。純移動率につきましては、宅地造成に伴って転入者の増加が見込まれますので、それぞれ、宅地造成に伴う純移動者数を加味した移動率等を設定して推計しております。続いて、32ページの最終ページでございます。推計した結果として、最終的な富谷市の将来推計人口としましては、住みたくなるまち日本一に向けた各種施策の効果や宅地造成に伴う転入は、一時的な増加ではなく、長期的・段階的に続くことを想定しておりますので、その想定により近い純移動率を設定した独自ケース①を富谷市の将来推計人口といたしました。

総合計画の基本構想では、2030年に52,900人、2035年に53,800人の目標としてお示ししておりますが、こちらのグラフの推移のとおり、2035年以降、2060年までに60,000人を目標とする富谷市の人口ビジョンとして作成したところでございます。第3次富谷市人口ビジョンにつきましては、説明は以上でございます。

(風見会長)

人口減少社会の中で、人口増の目標を立てる富谷市は素晴らしいまちだと思います。只今ご説明がありました第2次富谷市地方創生総合戦略案及び第3次富谷市人口ビジョン案について、お気づきの点やご質問、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(風見会長)

大変強気にも見えますけれども、今の富谷市の現状からすれば、この目標で十分だろうと思います。これから特に都市間競争が激しくなりますので、実現できるようにぜひ一緒に取り組んでいただければ

と思います。それでは、こちらにつきましても承認ということでもよろしく願いいたします。

(3) 第2次富谷市国土利用計画答申案について

(風見会長)

それでは、議事の3つ目、(3) 第2次富谷市国土利用計画答申案について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第2次富谷市国土利用計画答申案についてご説明いたします。

資料4をご覧くださいまして、前回、第3回の審議会で、計画案として全体をご説明いたしました。その後、11月21日の議員全員協議会で議員の皆様概要をご説明しております。また、宮城県との協議、パブリックコメントを実施したところでございます。宮城県からは主に軽微な文言の修正のご意見をいただき、すでに計画へ反映しております。パブリックコメントにつきましては、昨年12月15日から年明け1月5日まで実施いたしました。ご意見はいただいておりません。その他、全庁的な照会を実施して、文面や文言の修正を反映しておりますが、前回ご説明した内容に大きな変更はございません。

第2次富谷市国土利用計画は、現行計画の第1次計画を踏襲し、国や県の計画、市のトレンドを反映して、まとめております。目次をご覧ください。計画の構成として、大きく3つの項目で構成しております。

「1. 市土の利用に関する基本構想」として、基本理念や計画期間等をまとめております。「2. 市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標及びその地域別の概要」では、市土の利用目的に応じた区分ごとの10年後の目標面積等について整理した内容としております。「3. 本計画を達成するために必要な措置の概要」では、市土の有効利用、目標面積達成に向けた取組をまとめております。計画の目標年次を令和17年として、今年度の4月以降の10年間の計画でございます。

続いて、11ページをご覧ください。市土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標でございます。こちらの表では、目標年次令和17年の農地や森林等の利用区分ごとに目標面積をまとめております。表の2列目に、基準年の令和5年時点の各面積を記載しております。こちらの面積は、宮城県が保有する直近のデータを反映しております。3列目が、今回の計画の令和17年の目標年次における目標面積としております。農地や森林等の面積の増減につきましては、成田二期北等の工業団地や成田二期西、東等の住宅団地の整備、その他、新たに土地利用の転換を予定しているエリアを含めた面積の増減を表しております。この表に記載の目標面積のとおり、計画に基づいて、利用区分ごとに適正かつ効果的な土地利用を進めることとしております。

今後10年間の富谷市の土地利用について、図を作成しておりますので、カラー刷りの図をご覧ください。4枚ございます。1枚目、右上に「富谷市土地利用図(基準年次:R5)」と記載した図をご覧ください。こちらは基準年、令和5年時点の富谷市の土地利用の状況を表した図になりますが、左下の凡例のとおり、農地等の利用区分ごとに色塗りをしております。

続いて、2枚目、「土地利用現況図(R7.12.1時点)」と記載された図につきましては、前回の審議会以降に新たに追加しております。既に市街化区域編入済みの成田二期北工業団地や成田二期西・東住宅団地、また、高屋敷西工業団地等の現時点で宅地化された現況を示した図でございます。

続いて、3枚目の図、「富谷市土地利用転換図」と記載した図をご覧ください。こちらは令和17年まで

に新たな土地利用の転換を進めていくエリアを示した図でございます。新たな土地利用の転換エリアとして、図の一番上にあるピンクに塗られているエリア、富谷市の北側への住宅地の提供として、住宅用地として転換していくことを想定したエリアでございます。また、真ん中左側、富谷市の西側になりますが、国道4号沿いの高屋敷の入り口付近から南に向かって鷹乃杜付近までと、富谷インターチェンジ付近について、新たな土地利用として、商業施設、物流等の業務系の用地として転換を想定しております。一番下の明石台東二期につきましては、市街化区域に未編入となっておりますので、第1次計画に引き続き、掲載しております。今後の工業団地の整備等と併せた、有効的な土地利用の転換を進める予定でございます。

最後4枚目、右上に土地利用構想図と記載されている図になりますが、先ほどの転換予定地を反映した目標年次令和17年の富谷市の土地利用を反映した図となっております。この構想図のとおり、今回の国土利用計画をベースとしまして、自然環境にも配慮した利便性の高い持続可能な富谷市の土地利用を進める計画としてまとめております。

最後に参考資料として、策定の経緯・土地利用面積等の推移などをまとめておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

第2次富谷市国土利用計画答申案につきましては、以上になりますが、今後、2月議会定例会に上程し、議決をいただいた後、3月の策定を予定しております。説明は以上でございます。

(風見会長)

これも前回ご覧いただいておりますが、今後の都市化、市街化が進むべきところ、保全されるべきところが色分けされているという重要な計画です。色々な意味で、これからの富谷市の発展を左右するような大きな計画であると思います。この国土利用計画、総合計画、地方総合戦略をあわせて、田園都市というコンセプトを一本で貫いていかれると思います。富谷市としては、これらの計画の横のつながりも大事にさせていただきながら、全庁的に取り組んでいただければと思います。只今の説明について、ご質問等はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

後ほど答申をさせていただきますので、こちらでご承認いただいたということで、ありがとうございます。以上で、今回の議事は終了いたします。

おかげさまで、ここまで審議を進めてまいりまして、富谷市の10年、100年を決めるような大きな計画が策定されたと思います。皆様には、ちょうど2年間審議会委員をお勤めいただきました。最後に恒例になりますが、お勤めいただいた感想でも、この総合計画を含めての期待や決意表明でも結構でございますので、最後に一言ずつ、ご挨拶いただきたいと思います。それでは、佐々木委員お願いします。

(佐々木委員)

最後に本当に素晴らしい総合計画ができたのではないかと思います。最後のブラッシュアップがあると思いますけれども、引き続き、よろしく願いできればと思います。私も、水曜日に大学を抜けられないという事情がありまして、欠席してしまったところもあります。昨日も、学生の卒業論文の発表会がありまして、宮城大学の地域創生学類からも2名、富谷市役所に採用いただきました。私のゼミから1人と富谷市の市民ワークショップを担当いただいた石内先生のゼミから1人お世話になりますので、私が力不足な分2人には頑張ってもらおうと思っております。

これから進めていく段階になりますが、2つ歴史的なことを思い出しましたので、お伝えしたいと思

います。これからの施策の中で、成田二期北工業用地の造成が始まっていくということで、色々な工事も始まると思いますが、昨年度、成田の造成地で中世の遺跡が出てきています。中世の遺跡として建物跡は出てきましたが、土器類が出てきていません。これはなかなか珍しいことで、砂鉄を使った、たたら製鉄など何らかの工業的なことがなされていて、当時としては最先端の技術が富谷で営まれていた可能性があるのも、良いストーリーになるのではないかと思います。中世の富谷で何が作られていたかまでは詳しく分かっていませんが、たたら製鉄はかつての最先端の技術でした。中世の最先端の工業が富谷で行われていた可能性があると思いますので、ぜひ機会があればストーリーとして残していただきたいです。

2つ目は、とみやどにも関わらせていただきましたが、富谷の人物として、内ヶ崎作三郎という人が重要だと思いますし、これから色々な政策を進めていく際にも、富谷に根付いた歴史からストーリーを作っていくと、住民の方も納得して施策を進められると思います。連続テレビ小説「ばけばけ」が毎朝放映されていますけれども、内ヶ崎作三郎は小泉八雲とも関係性があります。皆様ご存じのとおり、内ヶ崎作三郎は東京大学に行きましたが、小泉八雲に学びに行っています。内ヶ崎作三郎は、小泉八雲の愛弟子です。小泉八雲の「ばけばけ」は島根の話ですが、小泉八雲は東京大学に赴任します。それでも小泉八雲はあのと通りの人物なので、東京大学も辞めてしまいます。その後、早稲田大学に移りますが、それを手引きしたのが内ヶ崎作三郎です。これにはどんなストーリーがあったか分かりませんが、子どもたちの学びや海外への展開という時には、こうした内ヶ崎作三郎以外にも、富谷の先人や現在ご存命の方でも素晴らしい方がいらっしゃいます。こうした富谷の中世、近現代の富谷も素晴らしく、近代的に発展してきた団地のイメージもありますが、歴史もありますので、これから政策につなげていく時に、そういった富谷のストーリーと上手く当てはめていくと、市民の皆様が納得して参加できると思い、コメントとさせていただきますと思います。皆様、本当にお疲れ様でした。

(風見会長)

ありがとうございました。新たな展開がありまして、市長も楽しんでおられると思います。歴史は重要なので、内ヶ崎作三郎のことについては、過去にプレミアムスクールで若生市長と一緒に体感させていただきました。アーカイブもあると思いますが、佐々木委員の歴史講座もありますので、ご覧いただければと思います。その土地の偉人、歴史が本物の観光資源ですので、その点もぜひさらに広げていただきたいです。それでは、阿部委員お願いします。

(阿部委員)

総合計画について非常に皆様の意見がまとまっていると思います。市政施行から令和8年度で10年になるとと思いますが、10年前には想像もつかないことが起きていると思います。私はくろかわ商工会の立場で、毎回意見を言わせていただきました。くろかわ商工会の会員数は現在1,400人位ですが、500名ほどの大和支部の会員数を、2年ほど前から富谷支部の会員数が増えまして、富谷支部は、くろかわ商工会の中で一番会員数が増えた支部になっています。私は、とみやどがあるしんまち地区で商売をやっていますが、成田地区で商売を始める方や、富谷市主催の富谷塾生の方にも数名、新たに商工会に加入していただきました。今年も商工会の新年講演会がありまして、社員と社長の考え方の相違など、メンタル面を中心とした内容の講演でしたが、そういった会でも色々な企業が増えている地域だと感じました。

審議会に参加させていただいて思うところといたしましては、成田二期北工業用地に大きな企業が誘

致されるのも良いのですが、我々のような中小企業が根付くことが一番良いのではないかとこのころです。当社の事務員は、成田地区やしんまち地区に住んでいますが、富谷市のどこが良いのかという話を聞いてみました。そうすると、車で移動できて買い物もできるし、祖父母も一緒に住んでいて、病院もある。今後、東北医科薬科大学の病院ができることも非常に期待されておりますし、今年5月に開館する図書館との複合施設であるユートミヤなど、非常に盛り上がってきています。このような計画を実行していくことは、富谷市にとって大変なことだと思いますが、私もこの審議会に参加したからこそ分かる部分もありますので、市民一人ひとりに少しでも、具体的にこのようなことをやっているというアピールができればと思います。計画には目標がありますので、目標に則ってしっかりと実施していただければと思うところです。住みたくなるまち日本一ということで、富谷市が日本一になるようなまちになるべく、委員の一人として今後も参加させていただいて、頑張らせていただきたいと思います。以上、私からの挨拶でございます。

(風見会長)

ありがとうございました。決意表明だと受け取りましたけれども、本当に市民力と地域企業の力を大切にして進めていければと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。それでは、成澤委員お願いします。

(成澤委員)

今回の総合計画は、市民の声や審議会委員の声をしっかりと反映していて、非常に内容が充実したものになったと思います。デザインや視認性も非常に良く、素晴らしい総合計画になったのではないかと感じております。

最近改めて、色々な取引先と話をするなかで富谷市は本当に魅力的なまちだということを感じています。県内企業だけではなく、最近では東京などの上場企業のお客様からも富谷市を紹介してほしいという声があり、その都度、職員の皆様に紹介させていただいております。宮城県内の市町村の中でも、なぜ富谷市ですかと企業に聞くと、富谷市は宮城県内で事業連携をする中でも、一番良いという声が聞かれています。先ほど若生市長からも、伊東市や流山市の視察の話がありましたが、注目度が高いまちということで、富谷市は非常に先進的な取組をしていて、前向きなイメージがあるということと発信力が高いことが奏功しているのではないかと感じております。総合計画を策定しまして、今度は実際のアクションのフェーズになると思いますが、市民、市内の企業、県内外の企業に対して、「こういった取組をしている」という情報の発信が大事になると思います。我々も微力ながら、今後一緒に富谷市の魅力をPRしていければと思います。

最後に、この総合計画の中で、経済環境の変化やDX推進というところがあります。DXに内包されるかもしれませんが、最近ではAIの利活用はこれから避けては通れないところになると思いますので、そのような施策に民間の力も活用しながら生かしていただければと思います。私からは以上です。

(風見会長)

ありがとうございました。私も色々なところでお伺いしますので、富谷市はとても注目されていると思います。魅力の分析をしなければならぬと思うところですが、住民の方の定住意向が高いとありましたが、それが指標として大きいと思います。本当の住みやすさは常に問われるものであります。

七十七銀行については、ぜひ地元寄り添った金融機関として、富谷支店はもっと忙しく大変になるかもしれませんが、よろしく申し上げます。それでは、高橋（知）委員申し上げます。

（高橋（知）委員）

本当にいよいよここまで来たというところですが、私としては改めて、教育環境を中心に見させていただきました。

住みたくなるまち、子どもにやさしいまち、定住など色々なキーワードがある中ですが、先日、20歳を祝う会に参加させていただきました。20歳になった方が富谷市に戻ってきて、本当にすごい出席率だったことを踏まえて考えると、子どもたちはこの富谷市にすごく誇りを持っていると改めて感じましたし、本当にブランド化していると感じております。本当に富谷市に住むと、ネームバリューだけではなく、誇りもあるし、ここに住むことの色々な利点が子どものころから浸透していると改めて感じています。

総合計画に「つながっていない児童生徒ゼロ」というところがありましたが、私たち学校教育の側でも不登校など色々な問題はありまして、そのようなところのバックアップや、それだけではなく学力を定着するための学び合いなど、市を挙げて取り組んでいるところをアピールしています。それにより、他からどんどん富谷市に住みたいという人を引きつけ、富谷市に入ってきた子どもたちが育ち、また富谷市に戻ってくるというサイクルがどんどん生まれてきていることを感じています。本当に、総合計画案に書いてあるとおりで、色々な環境や制度を前向きに取り組まれているので、これをぜひ私たちも受け取って、保護者や子どもたち、地域と連携しながら進めていきたいと改めて感じたところです。

（風見会長）

ありがとうございます。魅力の分析をしなければいけないと思った矢先に分析いただいて、さすがだと思って聞いておりました。やはり地域の誇りを醸成できたというところが大きいと思います。富谷市民でいることは喜びにあふれていて、それは未来への希望と言えるのではないのでしょうか。未来への可能性があるところに人は集まってくると思います。若生市長はじめ、職員の皆様も、コロナ禍の時など、大変な時も嬉しい時も積極的に真正面から取り組んで、真っ先に動かれたところは、市民の皆様にも届いているのではないのでしょうか。その意味では、未来の可能性を富谷市ではしっかりと発信できているという、魅力の分析をしていただいたと思っています。今回の総合計画も大変アグレッシブな内容だと思いますので、未来を描き続け、それによって多くの市民の皆様の地元愛を高めていきたいと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。それでは、菅原委員申し上げます。

（菅原委員）

この審議会に委員として出席させていただいて、改めて富谷市ではこれまでの10年間でベースを作る努力をしてきたと思いますし、これからの10年間で大きく期待できるものになると、この第2次総合計画を見て思いました。職員の皆様や地域の皆様が小さな一歩、大きな一歩を確実に進んでこられた結果、この計画に続いてきたのだと思いますし、本当に後退することなく進まれてきたということが、この計画に生かされていると思いました。

12月に宮城県の地域共生会議に出席させていただきました。佐々木委員がコーディネートされた会議でしたが、様々な会社や地域の方々のつながりが色々なところで見え、会議の中でつながった方もいる

ような素晴らしい会議でした。おそらく富谷市の中で考えると、私もそれをしてみたい、やってみみたいという思いを持つ市民の方がたくさんいらっしゃると思いました。社会福祉協議会で地域の方々と一緒にご支援させていただき、共に色々なお仕事をさせていただいておりますが、社会福祉協議会にご協力いただいた方は自ら手を挙げてきてくれた方です。自分たちが支援していることで、皆様が喜んでいただける、自分もやりがいを感じるし、元気でいられるとおっしゃっています。そういった方々とまたこの10年間の地域づくりや市民力の向上など、人の力で進んでいく部分は、社会福祉協議会で共にやっていければ良いと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

(風見会長)

ありがとうございました。社会福祉の面では特に「オールとみや」での取組が重要だと思います。ソーシャルインクルージョンとも言います。人間は心身が弱らないと重要性に気付かないので、標準的にノーマライゼーションのように、当たり前前に皆様が弱った時のことも想像できるような社会、そのようなことを目指して菅原委員は頑張っておられると思います。計画の中にも盛り込まれていると思いますので、さらに具体的に広めていただくということで、引き続きよろしく申し上げます。それでは、富田委員をお願いします。

(富田委員)

素晴らしい総合計画が引き上がったと本当に思っています。特に取組目標もとても見やすくなっていると思いますし、富谷ブルーというアイコンもできたようなので、ブルーで攻める富谷市も良いと思いました。

以前からも審議会に参加させていただいて、35年かけて人口が1万5千人から5万人まで増えている富谷市で、次の35年でさらに1万人を増やす。これはただの数字ではなく、ここに向かってきちんとマイルストーンが置かれている計画だと思いますし、上手に未来を見ていると思います。これを今後市民としてどうやってこれを読んでいこうか、何を実践していこうかということ、今度は皆様にお伝えしていく番だと思います。

私の家では、来年度に当番制の町内会担当になりました。毎回、5年に一度くらいで担当が回ってきますが、集まりに参加した家族が「年配の人ばかりだった」と言っていました。どうしても世帯主の方が来ると思いますが、このようなところにも若い人がどんどん来るといった環境を作ることも大事だと思っています。私の所属する町内会では、お祭りになると若い人が手伝ってくれる環境がだいぶ整っています。月々の町内会でも、若い人が出席してくれて、何か意見を言ってくると、地域の循環や愛着も生まれていくのではないかと思います。やはり人口を6万人にするには、行政による大きな施策だけではなく、市民の地道な地域を良くする活動も大事だと思います。この総合計画を読んでもらいながら、楽しく地域を盛り上げていくことを浸透していただければと思いますし、私もそのように一員として取り組んでいこうと思っています。

話は変わりますが、富谷インターチェンジのジャンクションフル化について若生市長に質問させていただきたいです。最近、仙台北部道路を通ると工事車両がたくさんあって、これがフルジャンクション化に向けた工事だと思っておりましたが、国土利用計画にはそのような記述が見受けられないので、今後どのように進んでいくのかを質問させてください。

(若生市長)

富谷インターチェンジのジャンクションフル化は、富谷町の時代からの念願でした。これが令和6年3月に事業化が決定し、本当に長年の念願が叶いました。昨年12月に地権者説明会があり、まだ公表はされていませんが、ジャンクションフル化の内容が示され、いよいよこれから工事に入っていく段階です。今進んでいるのは、その前段で令和3年度に事業化が決定した4車線化の工事でございます。4車線化とジャンクションフル化が進められています。それと合わせて成田二期北の200ヘクタールの工業用地が東北自動車道と仙台北部道路に面してできるということで、まさに大きな発展の中核になるということで、着実に準備を進めております。

(風見会長)

これも大きく富谷市のポテンシャルを上げることになると思います。富田委員は、地域側の市民力になる方だと思いますが、決意表明をいただきましたので、引き続き市民力を上げるように頑張ってくださいということで、よろしくお祈りします。それでは、村上委員お願いします。

(村上委員)

私は、この総合計画審議会に参加して、まだ2、3年ぐらいですが、この総合計画を最初から作ってこられた皆様の努力と成果を市民として感じている一人です。今回の第2次総合計画の策定に関わらせていただきましたが、重点施策には私自身やその周りの人たちが関わっていることが挙げられており、嬉しいと率直に感じました。富谷の魅力という話が先ほど出ていました。私も色々な会議や交流会に参加させていただいていますが、「富谷の魅力は何ですか」といったアンケートのようなものが毎回あります。実際に聞いてみると、富谷市に住みたいと思った理由として、自然が豊かという理由が必ず出てきます。私もその一人ですが、この計画に田園都市構想に基づいて富谷市の保護すべき場所と活性化すべき場所が書いてあったので安心しました。富谷市の魅力、人気が高まっているということについては、私も実際に感じています。私は林業関係の事業も行っており、この審議会に来る前に、林業関係の県の総会に参加してきました。その中で、「富谷市には大きな山がないのに、なぜ村上さんたちは富谷市で活動しているのか」といった質問があったのですが、私は「富谷市には大きな山も川もないけれど、魅力的な自然が残されており、そこに住み続けたいと思う市民がたくさんいる。」とお答えしました。それならば続けるしかないという話になりましたし、それをサポートしてくれる行政の方や、支えてくれる市民の方がいると感じています。この富谷市には、持続可能なまちにふさわしい市民が集まっていると感じています。

重点施策の中で、森林や自然にも触れられていますが、成田二期北工業用地の工事がこれから始まります。私は今、成田地区に住んでいますが、その住宅団地よりも大きな工業団地が作られます。それによって必ず自然は失われる部分があります。先ほど佐々木先生が歴史とおっしゃったのですが、その土地に元々あったものが隠されていたり、元々植えてあったものがあると思います。そこにあった大切なものを、残された場所に移植して保全するといったことも重要だと考えています。ぜひ森林環境の適切な保全と活用というところで生かしていただけたらと思います。未来の子どもたちに残すという意味で、一部でも残されているという状況があれば良いと個人的に感じています。

(若生市長)

今、大切なお言葉だったので、ご説明させていただきます。成田二期北工業用地の開発をすると、自然が無くなるのではという点ですが、今回はしっかりと大きなビオトープを3か所設けて、かなりの費用をかけて残すべき動植物も含めて保存していきます。佐々木委員がおっしゃった遺跡の保存部分は色々難易度の高いところですが、動植物についてはしっかりとビオトープを設置して残すことは明確にしてあります。しっかりと大切なものは守っていきますので、ご理解いただければと思います。

(風見会長)

ありがとうございました。村上委員からありましたとおり、富谷市の大きな力として自然力も加える必要があります。富谷市の大きな力は市民力と自然力であり、それを表現したのが田園都市の思想でもありますので、とても幸運にも美しい自然が上手に残りながら市街化をしてきたということは、確かに大きいと思います。東京の郊外ですと、横浜などはほとんど緑地が残っていません。その意味では、大亀山森林公園含め、素晴らしい緑地がたくさんありますので、それを上手に生かしていくために頑張っただけだと思います。開発時の環境保全については、ミティゲーション（環境保全措置）という専門分野があり、私は専門家なので良く分かります。私に関わった東松島市の森の学校整備の際もミティゲーションをしました。一番良いのは保存することですが、村上委員がおっしゃったように、代償行為で移植する、地形もなるべく自然地形を残しながら開発するという方法もあります。そのような流れになっていますので、造成するデベロッパーも分かっているとは思いますが、富谷市は自然を大事にするのだと伝えていただき、しっかりやり遂げていただければ、さらに評価される開発になると思いますので、引き続き頑張っただけだと思います。そのあたりは、富谷市のコンセプトでもあると思います。村上委員には、市民としての側面と事業者としての側面がありますので、今後も重点施策にある森林再生プロジェクト等で頑張っただけだと思います。それでは、増田委員お願いします。

(増田委員)

総合計画が素晴らしいものになったことを本当にとっても嬉しく思っております。まとめてくださったご尽力に本当に心から感謝申し上げます。きつこの総合計画がまた富谷市の誇りの一つと言えるものになると思っております。これが最上位計画になると思いますが、私はその下の色々な計画の委員会や審議会に出させていただいています。そこでは本当にどの委員の方のご意見も、時間があつたらもっと聞いてみたいと思う方々ばかりです。絵空事ではなくて、本当に工夫すれば今すぐにでも実現できるような、地に足のついた建設的な意見を皆様がおっしゃるので、本当に会議が終わる時には、心洗われるような気持ちで帰っています。それが本当に富谷市の素晴らしいところで、総合計画を絵空事で終わらせないためには、その部分が大事だろうと思っておりますので、安心しています。本当に富谷市はとても住みやすい、ずっと住んでいきたいまちだと私は思いますが、何が一番かと問われれば、私にとっては本当に地域に素敵な仲間がいることと答えます。私に何かあっても駆けつけてくれると思う人たちに囲まれているところです。自治体の評価が出された際に、最初に目につくところは、外的な条件になると思いますが、実は本当に市民一人ひとりが、近所の方と仲良くしている、町内会が頑張っていることなどが大事だと思います。そのようなことが富谷市の魅力だと思いますし、それは私たち一人ひとりが意識をしてこれからもより良いものにしていかなければならない部分だと思っております。この表題にある「住みたくなるまち日本一」を実現するのは、私たち一人ひとりがこの日本一にしたいという意欲をも

って、自分にできることをやっていくか、そこにかかっていると思うので、この素晴らしい計画を前にして、責任も感じているところです。出来ることはこれからも取り組んでいきたいと思っております。

(風見会長)

ありがとうございました。本当に毎回、地域愛を感じるメッセージをいただいて、いつも感銘を受けておりました。本当に地域を愛する人が絶えない限り、地域は大丈夫だと思います。地域力は地域愛です。その意味では、それを感じる審議会だったと思います。引き続き、地域を盛り上げていただければと思います。よろしく申し上げます。それでは、新藤委員申し上げます。

(新藤委員)

2年間この審議会に参加させていただきましたけれども、本当に富谷市のエネルギーを肌で感じました。私も微力ですけれども、一層力を込めて、知恵を絞りながらまちづくりに動いてまいりたいと思っております。

先ほど、子どもの話がありましたが、私が会長を務める町内会では、東京の学校や会社から帰省した人が、芋煮会をはじめ夏休みや冬休みに開催される行事を手伝ってくれています。富谷市は最高に良いまちであると、色々と手伝えることが楽しいと言っています。そのような富谷市の素晴らしいまちづくりが若い方にも浸透していて、帰ってきた場合でも何かお手伝いしましょうかと、ご両親とも一緒にお声掛けをいただいています。そのような方はご結婚や就職されていたとしても、富谷市に家を建てるといったケースもあり得ると私は考えています。そのような気持ちの若い人が都会に出て、その後戻ってきた時の受け入れ態勢として、町内会の皆様と一緒に歓迎するという雰囲気が富谷市にはあると思っています。その意味で、町内会に若い方がどうしても入りづらいという話もありますけれども、町内会はまだまだ捨てたものではないと私は思います。そのようなまちづくりを行っていくためにも、町内会がきちんとした受け入れ態勢を整えていなければならないと感じています。

もう一点、行政区長会会長の立場から申し上げますが、令和8年度に公民館が市民センターとして生まれ変わります。市民センターは皆様と共に利用する場所だと思います。65歳以上の方が各地区とも増えていますので、例えば、その市民センターに月1回で良いので、「シニアの集いの場」として、ボランティアと町内会が協力して、食事会をしてほしいと思います。例えば、午前11時から午後1時の間、月一回300円でも良いのでお食事とお飲み物を出すような場所を設けていただきたいと思います。食というものは人間にとって欠かせないものであり、お食事をしながらご高齢の方も皆様で楽しんでいただきたいと思います。そこでは色々な話題で話をできるし、人とのふれあいも確保できます。特に現在は、地域の中でのふれあいが少なくなっています。行政区長会はやはり地域と密接な関係にあります。富谷市は若い人が多いまちとは言われていますが、これから高齢者が増えてきますので、シニアの集いの場としての利用は、市民センターの利用案として良いのではないかと思います。以上です。

(風見会長)

ありがとうございました。新藤委員にはいつも熱い想いを語っていただきましたけれども、引き続き、これからも長く富谷市を導いていただければと思います。多世代交流は若い方からと良く言われますが、コロナ以降そのようなふれあいが少なくなったところがあると思いますので、ぜひ年長の方からお声掛けいただきたいと想います。まちづくりは地域のコミュニティが基本であり、この部分があって初めて

市民力になりますので、引き続きお力添えをよろしく申し上げます。

(風見会長)

一通り、ご意見をいただきましたが、本当に2年間の想いを込めていただきまして、ありがとうございました。本当にまとめやすいという言い方や表現が適切か分かりませんが、皆様からとても率直に、前向きな意見をいただけたので、とても素晴らしく良い総合計画が出来上がったと思います。それでは、最後に若生市長をお願いします。

(若生市長)

本当に審議会委員の皆様から、何よりも富谷の未来に対して、明るくポジティブなコメントをいただいたことを大変うれしく思います。これまでの10年間につきましても、皆様から富谷市の良さをそれぞれの視点で言葉としていただけたということは、大変ありがたく感じているところでございます。先ほど、菅原委員からこれまでの10年間がベースという話がありましたが、改めてこの10年間はベースとなる期間だったと思います。今回の第2次総合計画では、18の重点施策を掲げています。この一つひとつにはこれまでの10年間のベースがあります。東北医科薬科大学病院の開設に向けた動きや富谷ジャンクションフル化も含めて、様々な形でこれまでの10年間でベースができ、その上で次のステップアップした未来に向けてスタートする10年だということを、改めて皆様からお言葉をいただいている中で感じたところでございます。この総合計画に対して高い評価をいただきましたが、計画は作ることが目的ではなく、この計画をいかに実現していくのが大切です。大変重くプレッシャーを感じていますが、これは我々だけでやることではなく、実際に市民活動をやられている皆様も実現に向けてしっかりと責任を感じていらっしゃるのお言葉をいただきました。市民の皆様とともにこの新たな総合計画の実現に向けて取り組んでいくものだと思っております。そのために我々は、行政がやるべき役割をしっかりと担っていきたいと思っておりますし、市民の皆様が一人でも多く「オールとみや」で、参画をしていただいて、皆様と共に「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。改めて、皆様一人ひとりのコメントに感謝の気持ちでいっぱいでございます。

この皆様からいただいた言葉、ご意見を一つひとつ、必ず実現に向けて取り組んでいくという決意表明も含めて、私からの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(風見会長)

2年間本当にありがとうございました。大変活発なご意見があり、一人ひとりがその立場をしっかりとわきまえ、一市民としても事業者の代表としても前向きなご意見をいただいたと思います。皆様のご意見は、若生市長が全て受け取っておられると思いますので、決意表明としてこれからしっかりと見守り、一緒に取り組んでいけるという喜びを感じたところです。

最後に、私から2点あります。1点目は「都市経営」です。自治体は実際に予算があつて、人が動いて成果を出していくものですので経営と言えます。その意味では、若生市長は経営のご経験者ですので、いつも頼もしく拝見しております。都市経営の視点でこれだけのプロジェクトを行っていくということは、財政もしっかりと攻めていかなければいけませんし、議会への説明も大変だと思います。それでも、積極的に財政もしっかりと考えながら、市民に喜んでいただけることを実践しなければ前に進みませんので、その意味では発信力のある富谷市として、この10年間で実現できることが重要だと思います。こ

れまでの10年間があつて初めて立てられるような計画になっていますので、次の10年間で計画を成し遂げることができれば、富谷市は全く違うステージに行くのではないかと考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

2点目としては、富谷市を会社と考えると、市民は言ってみれば会社員のようなもので、審議会委員の皆様は重役に近いです。審議会にはご意見番の方々がお集まりになっていますけれども、市民は本当に草の根で、新藤委員がおっしゃったように一人ひとりがそれぞれの想いを抱いていらっしゃいます。私からお願いしたいのは、富谷市という会社のために行動する市民でなければいけないということです。事業者の方も市民であることは事実ですし、その意味ではこの計画を一緒に実現するのだという思いで、お客様ではなく社員の側にいらっしゃる方ばかりですので、行動する市民をぜひ増やして欲しいと思います。ここで語られている熱を帯びた議論をどれだけ市民の皆様にも広げられるかということにかかっていると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

私はこれまで様々な自治体の総合計画策定に携わらせていただきましたが、富谷市では第1次総合計画から携わらせていただいたこともあり、また、皆様のおかげで一つの大きなところまでたどり着くことができたと思ひ、大変感謝しております。まちづくりは物語になります。この総合計画の中に物語がたくさん詰まっていますが、これを実際に演じていかないと物語にはなりませんので、若生市長を筆頭に産官学民が連携しながらこの物語をぜひ実現していければと思います。2年間、本当に活発なご議論ありがとうございました。皆様の議論があつて完成させることができました。最後に御礼を申し上げてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。それでは議事を司会にお返ししたいと思います。

5 答申

6 その他

※事務局より諸連絡

7 閉会